

研究主題

子供の意欲を高める魅力ある授業の創造

- 6 学年における本格的な教科担任制の取り組み -

(研究者) 仙台市立黒松小学校 学習指導部

(発表者) 栗原 研也

1. 6 学年における教科担任制導入の経緯

価値観が多様化し、学校への期待や要求が多岐にわたり、学級崩壊がマスコミを賑わす昨今「従来の学級担任制が、果たして最善のシステムなのだろうか？」という疑問が湧いてくる。特に精神的、肉体的発達成長の著しい6 学年という時期に一人の担任がすべての教科を子供の成長に寄与する高い水準を保って指導できるのだろうかという問いに確たる答えを出す時期になっている。それこそが今回の教科担任制移行への大きなきっかけになったといえる。

6 学年は、物事を論理的、関連的に思考する力が著しく成長する時期である。さまざまな指導者とふれあい、教師の専門性を生かした授業を展開することができれば「もっと知りたい」「意欲的に学習に取り組み深く理解してほしい」というニーズに応えることができる。また児童も多様な視点を持つ多くの指導者から自分という人間を見てもらうことができる。1 人のフィルターを通して個人を見ようとするのが学級担任制だとすれば、多くのフィルターを通して個人を見ようとするのが教科担任制である。多くの指導者から様々な観点で自らの可能性を見出してもらえれば学習への興味・関心・意欲は当然高くなるはずである。そして、その教科が好きになり学習の幅も広がることになる。このことを中心に全職員で何度も話し合いを重ね導入を決定した。

2. 高学年で教科担任制をなぜ導入するかという基本的な考え方

- (1) 今まで以上に子供一人一人の個性を把握し、子供のよさや可能性を生かした授業実践が強く求められている。
- (2) 社会全体の価値観の多様化に伴い、子供の興味・関心の対象もさまざまに広がり、それへの対応が必要になってくる。
- (3) 教師の専門や得意な分野を生かし、質の高い授業ができるようにする。
- (4) 子供の多様な要求に応じた指導を実践するためには教材研究や教材準備の時間を確保することが重要である。
- (5) 教務や研究主任など学級担任以外の教員配置が活用できる状況にある。
- (6) 中学校の教科担任制授業へのスムーズな移行を図る。

3. 年間研究計画

月	主な内容
4	研究計画の作成
5	教科担任制先進校の情報収集、通信票検討
6	児童・保護者の意識調査実施
7	教科担任制の問題点、改善策の検討
8	意識調査や報告内容のまとめ
9	1 学期までの成果、課題報告 (対保護者)
1 2	教科担任制の問題点、改善策の検討
1	次年度に向けての方向性検討
2	成果と課題についての報告 (対保護者)

4. 指導体制（指導教科・指導時数）

6学年4クラスを担当4人+教務・研究主任の6人体制で指導

※国語、社会、理科、音楽、図工、算数、体育の一部は教科担任で指導している。

※英語は学年の児童数2つの習熟度別グループに分けて指導している。

※英語以外の学習の時間、通達、学校活動等は担任以外で指導している。

教師	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	算数	体育	英語	英語	英語	指導時数
6の1担任	—	—	5	—	5	—	5	—	3	1	1	22.0
6の2担任	11	—	5	—	—	—	—	2.5	3	1	1	23.5
6の3担任	—	10	5	—	—	—	—	2.5	3	1	1	22.5
6の4担任	11	—	5	—	—	—	—	2.5	3	1	1	23.5
教務主任	—	—	—	—	—	5	—	2.5	—	—	—	8.0
研究主任	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	11.0
英語専任	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	5
英語専任	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	5

■ 学年としてクラスで指導 ■ 教科担任として指導 ■ グループ担当として指導

〔指導教科・指導時数〕

5. 教科担任制を実施しての

児童の声，教師の感想（6月実施）

【児童の感想】

- 授業が楽しい。
- 教科担任制の授業に大分慣れてきた。
- それぞれの教科で詳しくわかりやすく教えてくれる
- いろんな先生と勉強できるのがいい。
- 宿題や学習用具の忘れ物が減った。

- 宿題が多くなった。

- 教室の移動が多い。

【教師の感想】

- 前以上に単位時間の授業を充実させようとする意識が強くなり，教科進度も調整できるようになった。
- 学年全体の子どもたちとふれ合いが持ててよい。
- たくさんの子どもに気軽に話しかけたりできる。
- 授業に対し良い意味での緊張感が感じられる。
- 昨年より教材研究や準備のための時間が確保された。
- 特別教室の施設・備品の管理が充実してきた。



〔6年理科〕

ものの燃え方と空気の授業
専門性を生かした
授業で緊張感が感じられる。



（9月実施の児童アンケート一部抜粋）

6月には教科担任制に戸惑いを感じていた児童も，システムに慣れた9月には「とてもよい」「よい」と答えている。理由を見てみるといろいろな先生と関わりを持ちながら学習し先生と親しくなれること望んでいることがわかる。また，「教え方がうまい」「わかりやすい」など教科担任の指導法を積極的に評価していることもわかる。

6. 今後の展望

さまざまな意見を集約した形で6学年の教科担任制をスタートさせたが，児童と教師の感想はおおむね良好といえる。9月の学校自由参観では保護者に各教科担任の授業を参観していただいた。その後，6年の全保護者にアンケートを実施し意見の集約や改善点の分析作業を進めてきた。

6学年の担任をはじめとするスタッフは，日々遅くまでミーティングを持ち，児童一人一人の情報交換を行いながら，よりよい指導の手だてを模索している。しかも，教科担任制に携われる教諭の絶対的不足という厳しい状況の中で研究を進めているのが実情である。

このシステムが軌道に乗り，6学年において従来の学級担任制以上の効果を上げることができれば，他学年へも広げていけるかを検討することができると考えている。